

<児童アンケートの結果に関する考察>

○昨年度と同様、「学校へ行くのは楽しい」と肯定的に答えている児童が多い。(96%) 今後も児童が「学校が楽しい」と思える学校経営をめざしていく。しかしながら、若干ではあるが「やや楽しくない」と思っている児童がいることも常に意識しながらその原因を取り除く工夫や努力をしていく。

○「タブレットを使って学習するのは楽しい」とタブレットを使うことは肯定的にとらえている児童は多い。一人1台のタブレット端末が入り使用する頻度が高まっているからであろう。しかし、5%は否定的であり、ICT活用能力に差が生じないように授業改善を行い、有効に活用していきたい。

○「自分のよいところをわかってくれる友だちがいる」「誰とでも仲良く、遊んだり学習したりしている。」「いじわるやいじめをしていない。」の項目で、あてはまると答えた児童が増えた。それぞれの学級で仲間づくりを進めてきた成果であると考えられる。今後は、6%の否定的にとらえている子にも注意をしつつ人権教育の充実に努めたい。

○「自分の考えを説明したり、書いたりするのは好きである。」の項目はポイントが上がっている。学校向上や学校力向上拠点校事業等により国語の力を向上させることに取り組んできた成果が少しずつ表れてきたのではないか。今後も継続して取り組み、苦手と感じている児童を支えていきたい。

○「トイレのスリッパをそろえている。」「一生懸命そうじをしている。」の項目もポイントが上がっている。みんなのために動くことの大切さが少しずつ浸透しているのではないか。さらにポイントが上がるよう継続して指導していきたい。

△ 異年齢集団班(若鮎班)を楽しいと答えた児童が減少している。今年度も、コロナの感染状況により、活動を制限せざるを得ないことが多かった。異年齢集団班(若鮎班)活動への期待が大きいことの表れである。コロナの感染状況が収まれば、可能な範囲で活動を実施していく必要性を実感した。

△交通ルールや学校でのルールを守れていないと感じている児童がいる。登校時に列を乱したりおしゃべりをしながら歩いたりして交通安全に対する危機感が薄れていることや廊下を走ったり教室であばれたりしていることが考えられる。今後は、安全指導を十分に行い、安全面に気をつけて児童自らが考え、主体的に判断できるように指導していく。

△学習面で否定的な児童がいる。保護者アンケートでは自分の考えをしっかりと伝えられる子になってほしいという意見がある。様々な機会を捉えて自分の意見を表現できる場を設定していきたい。また、わからないときに質問できていないと感じている子にもフォローしていく必要がある。

△「進んで運動に取り組み、体をきたえている。」という項目でポイントが下がっている。スポーツ面では二極化が進んでいるように感じる。健康面からもアプローチして健康に学校生活を送ることができるよう指導していきたい。